

助成事業完了報告書(抜粋)

日本財団 会長 笹川 陽平 殿

報告日付:2025年4月1日

事業ID:2024003463

事業名:海と日本PROJECT in 山口県(エリア・海と日本2024)

団体名:一般社団法人海と日本プロジェクトinやまぐち

代表者名:林達男 印

TEL:0834-31-9300

事業完了日:2025年3月31日

1.事業内容

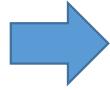
■事業内容1

(1)助成契約書記載の事業内容(予定)

1)オリジナルイベントの実施
(1)時期:2024年7月~8月
(2)場所:山口県萩市、長門市
(3)参加者:20名(小学生)
(4)テーマ:水揚量全国1位を誇るアマダイと変化する海の環境
(5)活動内容:漁港での水揚げ見学、定置網体験、座学等

(2)事業完了時の事業内容(実績)

1)オリジナルイベントの実施
(1)時期:2024年7月~8月
(2)場所:山口県萩市、長門市
(3)参加者:24名(小学生)
(4)テーマ:水揚量全国1位を誇るアマダイと変化する海の環境
(5)活動内容:稚魚育成見学、定置網体験、座学等



■事業内容2

(1)契約時の事業内容

2)応援動画等制作
(1)時期:通年
(2)内容:応援動画25~35本、プロジェクト訴求動画の制作3本

(2)事業内容の実施(完了)状況

2)応援動画等制作
(1)時期:通年
(2)内容:応援動画25本、プロジェクト訴求動画の制作4本



■事業内容3

(1)契約時の事業内容

3)ニュースサイトの運営
(1)時期:通年
(2)内容:海に関する50の取り組みをニュース記事で発信

(2)事業内容の実施(完了)状況

3)ニュースサイトの運営
(1)時期:通年
(2)内容:海に関する105の取り組みをニュース記事で発信



2.契約時事業目標の達成状況:

(1)助成契約書記載の目標

- 1、地域の海に関するイベントやアクティビティー等の2分程度～10分未満の紹介動画を25本以上制作する。
- 2、「地域の海」をテーマに15秒動画を3本制作する。
- 3、海と日本プロジェクトにて全国展開する事業(SOCIAL INNOVATION NEWS)と連携する。
- 4、放送局サイトに公式サイトのウィジェットを挿入の上、公式サイトにて地域の海に関するニュースを50本発信し、100,000PVを達成する。
- 5、地域の海が持つ特徴を子供たちが主体的に学ぶことができるオリジナルイベントを150名以上の応募者を集めて1回実施する。
- 6、海と日本プロジェクトの推進パートナーとの連携による賛同活動を伴う団体を増やし、オリジナルイベントの成果をエリア内で広く拡散する施策を実施する。

(2)目標の達成状況

- 1、県内の海に関するイベントやアクティビティー等の紹介動画を25本以上制作した。
- 2、「海ごみゼロウィーク」「灯台ウィーク」「海のごちそう」をテーマに15秒動画を4本制作した。
- 3、全国展開を行う事業と連動し、山口県内で下記(1)(2)(4)を、東京で(3)を実施した。
(1)CHANGE FOR THE BLUE(春の海ごみゼロウィーク、秋の海ごみゼロウィーク合計〇本)
(2)スポGOMI甲子園(山口県大会および全国大会)
(3)首都圏PRイベント「海のごちそうフェスティバル」
(4)その他(海とニュースプロジェクト、【SIN】用動画3件の納品、海と灯台ウィーク)
- 4、ニュース記事105本2750370PVを達成した。
- 5、2024年7月～8月にかけて山口県内の小学5・6年生を対象としたオリジナルイベント「アマダイを調べ隊」を実施した。
- 6、エリア内の団体・企業とコラボレーションした企画を以下の4件実施した。
(1)第39回しものせき海峡まつり 海プロブース広報展開
(2)海プロやまぐち×国民宿舎大城 オリジナルコラボ商品メニューの開発
(3)せとうちブループロジェクト2024
(4)周南みなとまつり ミナトのミーツ×海プロやまぐちコラボブース

3.事業実施によって得られた成果

3.事業実施によって得られた成果

海と日本プロジェクトinやまぐち実行委員会では、実行委員に山口県、山口県教育委員会、山口県内全自治体(13市6町)など20人を超える組織で全県的に海への関心を高め、行動を起こすムーブメントが一層醸成できたと思う。自治体等の積極的な協力もいただき、全事業の成功に至ったと思われる。山口県教育委員会の後援で実施した「アマダイを調べ隊」は、山口県が水揚げ量日本一を誇るアマダイについて萩市や長門市を訪れて調査を行った。アマダイの生態や漁法、漁獲量回復のための最前線の技術を学び、美味しさを保つための工夫や干物づくりなどを地元の方々に教えてもらしながら体験した。また、アマダイの美味しさを伝えるためにオリジナル商品を開発した。県内の小学生や観光地に新聞特別号を配布することを通して、県内外に更なる情報発信が出来たと考える。

4.活動を通じて明らかになった新たな課題と対応案

コロナウイルスの影響で、生活形式がかわり、興味関心が多方面に広がり、海に関するイベントへの興味関心が薄れているように感じる。オリジナルイベント等の実体験を伴う行事を積極的に行ってているが、オリジナルイベントの参加人数には限りがあり、絶対的な人数増にはつながりにくい現状がある。オリジナルイベントの参加者は、海に高い興味関心があり、小学生ながらその知識や情報量にこちらが驚かされるほどである。一部の人には海への興味関心があるが、山口県全体としてのムーブメントまで至っていない。応援動画で取材する、海に関して活動する取材対応者は高齢の方が多く、その次を担う世代が少なく感じた。次世代に豊かな海を引き継ぐためには、より多くの人がこの取り組みに参加してもらうことが重要である。そのためにも、山口県の海の問題を身近なものとして提起し、自分事として考えてもらい行動できる人を増やしていくよう、多様なメディアを効率よく使い、実行委員会メンバーとの連携を強化し、情報を幅広く届けられるような取り組みを行いたい。

5.事業成果物

(1)助成契約書記載の成果物名称

- (1)海に関するイベント応援動画 25～35本
- (2)プロジェクト訴求動画 3本
- (3)公式サイトにおける掲載記事 50本
- (4)オリジナルイベントのチラシ、ポスター
- (5)報告書

(2)事業完了時の成果物名称

- (1)海に関するイベント応援動画 25本
- (2)プロジェクト訴求動画 4本
- (3)公式サイトにおける掲載記事 105本
- (4)オリジナルイベントのチラシ、ポスター
- (5)報告書

